



四季 ~四中の季節~

第3号 (6月)

教育目標 ●自分で考え進んで実践する人間 ●公共心に富み情操豊かな人間
●勤労を尊び責任を重んじる人間 ●健康でたくましい人間

令和6年6月5日発行

校長 関 勝 志

〒187-0045

小平市学園西町1-3-1

☎ 042 (341) 4344

Mail gakkou@34.kodaira.ed.jp

『返事』で答え、『行動』で応えた運動会

校長 関 勝 志

5月25日(土)、第60回運動会を開催しました。小平四中の運動会は、練習から本番まで生徒の力で創り上げたものです。生徒を信じ、たとえ失敗することがあっても生徒に任せようという気持ちで見守り応援しました。うまくいかず苦労することも多かったと思いますが、期待にしっかりと応えてくれました。運動会スローガン「繋げ!六色の魂」のもと、全校生徒が繋がることができました。

また、地域のラジオ体操会の方々との共演や、PTAの係の方々のご協力もあり、保護者・地域とも繋がった運動会でした。多くの方々に支えられ、感動の運動会を創り上げることができましたことに、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



今回の運動会で、印象に残ったことが3つあります。

1つ目は、入退場の駆け足のときに「イチ・ニ、イチ・ニッ」と声をかけ、「イチ・ニ・サン・シ・ゴ」で止まる集団行動です。かけ声とともに心も合わせ、一体感がありました。

2つ目は、運動会実行委員が自身の気持ちやメッセージを必死に伝えようとしていたことです。実行委員長の武田さんは練習から本番まで多くの場面で熱いメッセージを伝え、そのひたむきな姿に誰もが感動しました。おそらくすべての実行委員がクラスで自身の思いを熱く語っていたのではないかと思います。

そして3つ目は、実行委員の呼びかけに「ハイ」と声を出して返事をしていました。しっかり行動でも表し、実行委員の気持ちに伝えていました。「ハイ」という返事があったことで、実行委員はきっと「気持ちが伝わっている」と安心感を得るとともに、「頑張ろう」と力をもらったのだと思います。

さて、私たちは、普段の生活の中で、名前を呼ばれたときや、大切な話をされたとき、呼びかけなどに対して「ハイ」と声を出して返事をしていでしょうか。大人でも返事をしない人は意外に多くいます。

「ハイ」という返事の語源は、「拜(おがむ)」という字です。「丁寧にお辞儀をする」「有り難く受ける」といった意味があります。つまり、「ハイ」という返事は、相手を敬う気持ちや、相手の呼びかけを感謝して受け取る気持ちの表れだということです。

12月になると、3年生は高校入試に向けた面接練習を行います。その際に私が必ず3年生に話すことがあります。それは、気持ちのいい挨拶をなさい。そして、質問されたら必ず「ハイ」と気持ちのいい返事をしてから、話をなさいということです。

素直な気持ちや感謝の気持ちがないと、気持ちのいい返事はできません。裏を返せば、気持ちのいい返事ができる人は、素直で感謝の気持ちがある人として認められるということです。「ハイ」という返事は、自分にとって、相手にとっても大切なものです。運動会は終わりましたが、これからも子どもたちには気持ちのいい返事で答えることを心がけてほしいと思います。

かつて、哲学者であり、教育者である、森信三という人物がおり、生涯にわたり全国各地で講演活動を行っていました。その著書や言葉には、いまなお多くの人々が感化を受け続けています。森信三先生は、「しつけ3原則」というものを提唱しています。

それは、1. 朝、必ず挨拶すること。

2. 呼ばれたら、必ず「ハイ」とはっきり返事すること。

3. ハキモノを脱いだら必ずそろえ、席を立ったら必ずイスを入れること。この3つです。

この3つのできる人は、他のこともきちんとできるという論理です。子どもたちのみならず、私たち大人も、このような生活習慣が身についているか、振り返ってみる必要があります。

「しつけ」とは、規律や礼儀作法など慣習に合った立ち居振る舞いができるようにすること(躰)ですが、裁縫でも使われます。型崩れしないよう細かいしつけ糸で整え仮縫いをします。製品が出来上がるとしつけ糸は取ってしまいます。家庭での「躰」も、このしつけ糸と似ています。乳幼児期からこれまで、保護者は様々な場面で一つ一つ丁寧にしつけ糸をかけてこられたことと思います。しつけ糸をはずすのは、はずしても型が崩れる心配がなくなったときです。それは、子ども本人の自律に委ねることに他ならず、中学生はその時期です。今の小平四中はご家庭の良い「しつけ」の上に成り立っているのだと思います。

■新しく四中に来られた先生方より■

- ★ 新規採用教員として着任しました秋野颯（あきのはやて）です。1学年のD組とE組の副担任として、また英語科として小平第四中学校の一員に仲間入りさせていただきました。教員一年目ということで、入学してきた一年生と同じ気持ちで、日々わくわくしながら四中生活を楽しんで過ごしています。まだまだ分からないことだらけですが、周りの先生方に支えていただきながら一生懸命に頑張っています。様々なことを生徒と一緒に学んでいきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。
- ★ 小平市立小平第二中学校から異動してきました岩崎昌之（いわさき まさゆき）です。教科は保健体育です。2か月が経過しましたが、運動会をはじめ様々な場面で生徒の皆さんのエネルギーを感じました。中学校生活で経験する全てのことが、皆さんにとって貴重な財産になります。共に熱い気持ちをもって小平四中での生活を充実したものにできればと思います。よろしくお願いいたします。
- ★ 小平四中の一橋教室から異動してきました真畑佳奈（まはたかな）です。今年度から、保健体育の授業を担当することになりました。授業ではもちろんですが、普段の学校生活でも、元気に挨拶してくれると嬉しいです。一緒に楽しい学校生活を作り上げていきましょう。よろしくお願いいたします。
- ★ 今年度からお世話になります、三鷹市立第六中学校から赴任しました山本裕貴（やまもとひろき）と申します。特別支援教室・一橋で働かせていただくことになりました。今年度は一中と二中の授業を担当することになりました。異動してから二ヵ月ほど経ちましたが、多くの先生方のお力を借りながら日々学んでいます。どうぞよろしくお願いいたします。

■『第60回運動会』ありがとうございました！■

5月25日（土）に行われました、第60回運動会には多くの保護者・地域の方にご来校いただきありがとうございました。来校者数は1276名と大変多くの皆様にお越しいただき、たくさんのご声援をいただきました。受付や見回り、広報誌の写真撮影など多くの保護者の方々にご協力をいただき、運動会が大成功となりました。これだけの協力が得られる学校はなかなかありません。ありがとうございました。

■『こだいら特別活動の日』 児童会・生徒会サミット■

6月8日（土）は、『こだいら特別活動の日』として、午前中はすべてのクラスの学級活動（話し合い活動・エンカウンター）を公開し、午後は代表のこどもたちによる児童会・生徒会サミットが開催されます。

特別活動は、こどもたちの自立を培い、自主的かつ実践的な態度を育む基盤となります。合意形成を図ったり、意思決定したりする活動を通して、問題解決に関わる実践的な力が育まれます。保護者ならびに地域の皆様には、学級経営及び学校経営について理解を深める機会としていただけたら幸いです。

サミットでは、人も自分も大切にできる学校づくりについて話し合います。小平市の教育目標「自立・貢献・共生」を大切に、みんなが安心して暮らし、生き生きと自分らしく活躍できるまちづくりについて、四中校区（四小・十小・十五小・四中）のこどもたちが考えを出し合い、人権標語を決定します。

■生徒の活躍■

剣道部 第10ブロック春季剣道錬成大会 女子の部 第3位

陸上競技部 第75回東京都中学校地域別陸上競技大会

女子東部2年100m 1位 2C 藤井日菜乃

女子東部共通100mH 1位 3E 力石依里香

女子東部共通200m 3位 2C 藤井日菜乃

女子東部共通4×100mR 2位 3C樽井・3E力石・2A福田・2C藤井

イラスト部 東京新聞（5/31朝刊）に作品が掲載されました 3D 増尾心那



私のイラスト 増尾 心那 14歳 (東京都小平市)

■6月の主な行事予定■

- | | | | |
|----|--|---------|--------------------|
| 3日 | 学級活動（コンセンサスゲーム） | 10日 | 振替休業日 |
| 5日 | 専門委員会 | 12日 | 小・中連携の日 ※午前授業 給食あり |
| 6日 | 中央委員会 | 14日 | 進路説明会（3） |
| 7日 | 避難訓練 | 17日 | 生徒会朝礼 |
| 8日 | 土曜授業 学校公開 ※給食なし
「こだいら特別活動の日」
児童会・生徒会サミット | 19日～21日 | 期末考査 ※19日と20日は給食なし |
| | | 26日 | 校内研修会 ※部活動は再登校 |